

令和4年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和5年度～令和7年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	歴史はっけん事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/歴史・文化・芸術文化の振興	担当課	文化振興課
施策①	歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進	電話番号	0193-27-7567
施策②	歴史・文化の継承	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
市長基本施策	多様につながる拠点としての先駆的なまちづくり	補助・単独	補助
事業期間	令和4年度～令和7年度		
事業の概要			
釜石市の歴史・文化が次世代に継承され、世代を越えたつながりを育むため、歴史資料や文化財の把握に努め、子どもから大人まで幅広く伝えるとともに、「釜石市文化財保存活用地域計画」を策定し、計画的な歴史文化の継承と保存活用手法の構築を図るもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が課題となっており、指定文化財はもちろんのこと、未指定を含めた文化財をまちづくりに生かしつつ、その継承に取り組む必要がある。
目的
釜石市の歴史史料や文化財を把握し、次世代に伝え継承するとともに、これらの保管場所を確保する。また、文化財を活用した地域アイデンティティの構築や交流人口の創出につなげる。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
①釜石市文化財保存活用地域計画を策定し、計画的な歴史文化の継承と、保存活用手法を構築する。②文化財関連機関と連携し、市内の歴史資料や文化財の把握に努める。③市民の歴史資料や文化財に係る意識を把握するため、アンケート調査を行う。④学校や生活応援センター、観光交流課等と連携するため協議の場を設ける。⑤HPやポスター、チラシ、パンフレットで広報活動を行う。		
事業費		
R 5	R 6	R 7
3,736 千円	4,177 千円	4,177 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
「釜石市文化財保存活用地域計画」を策定することにより、文化財の適切な保護・活用を検討していくことは、地域アイデンティティの構築が図られるとともに交流人口の拡大へとつながることも期待できる。令和5年度の計画策定に向けて、業務の効率化を図り、市民ニーズに応えられるような計画の策定とされたい。			

令和4年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和5年度～令和7年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	みんなで伝える郷土芸能体験事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/歴史・文化・芸術文化の振興	担当課	文化振興課
施策①	歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進	電話番号	0193-27-7567
施策②	郷土芸能の伝承支援	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
市長基本施策	多様につながる拠点としての先駆的なまちづくり	補助・単独	単独
事業期間	令和5年度～令和7年度		
事業の概要			
<p>少子高齢化などによって郷土芸能活動の後継者不足が課題となっていることから、子どもたちに郷土芸能を実体験する多様な機会を提供することで、郷土芸能の継承、担い手の育成につなげるもの。また、郷土芸能の映像記録を保存し、伝承活動の一助とするもの。</p>			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
市内の郷土芸能団体は、少子高齢化等によって参加者が減少し、担い手不足に陥っている。
目的
子どものころから郷土芸能活動に親しむことで、次世代の担い手確保につなげる。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、郷土芸能を鑑賞・体験できる機会を設ける。 郷土芸能が失伝しないよう、全演目を映像記録に保存する。 <p>※令和5年度は令和6・7年度の事業化に向けて事業内容を精査する。</p>		
事業費		
R 5	R 6	R 7
0 千円	2,231 千円	2,231 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	見直し余地あり	適切
評価結果			
<p>少子高齢化による郷土芸能・芸術文化活動の担い手不足の解消が期待できるだけでなく、子どもたちが楽しみながら地元への愛着の高まりが期待できる事業であることから実施に向けて、各関係機関との調整を図りながら、効率的でより高い成果をあげられるような事業となるよう進められたい。</p> <p>地域で伝統芸能を伝承していく仕組みにするなど内容を再精査されたい。</p>			

令和4年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和5年度～令和7年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	屋形貝塚保存活用事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/歴史・文化・芸術文化の振興	担当課	文化振興課
施策①	歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進	電話番号	0193-27-5714
施策②	埋蔵文化財の調査	ハード・ソフト	ソフト
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
市長基本施策	多様につながる拠点としての先駆的なまちづくり	補助・単独	補助
事業期間	令和4年度～令和7年度		
事業の概要			
唐丹町大石地区で発見された屋形遺跡は、三陸地方の歴史を解明する上で重要な遺跡であることから、令和3年3月に国の史跡指定となった。今後、長期的に整備・保存活用・周知等の各種施策を展開していくため、史跡保存活用計画や史跡整備計画等の策定に取り組むもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
屋形遺跡が国史跡となったことから、その価値にふさわしい活用を見出す必要がある。史跡整備計画を策定することで、市民と遺跡の価値の共有を図りつつ、より活用しやすい史跡としての在り方を追求していくことが求められる。
目的
釜石市の歴史・文化視点の魅力を掘り起こし、唐丹町をはじめ市民への還元を目的とする。そのために郷土に誇りを持ち、交流人口の増加や地域の活性化を図る地域資源として、屋形遺跡が活用される状況を目指す。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
①地域住民と有識者による史跡整備計画の策定を行う。②郷土資料館や市民ホールなどで周知活動を実施する。③学びの場としての体験学習や、生涯学習出前講座など通して地域への還元を行う。④史跡整備を行うため継続的な範囲内用確認調査を実施し、最新情報・詳細情報を発信していく。⑤史跡整備を進め、史跡範囲の土地確保を進めていく。		
事業費		
R 5	R 6	R 7
9,785 千円	10,297 千円	10,297 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	適切	適切	適切
評価結果			
交流人口の増加や地域アイデンティティの醸成に向けて、屋形遺跡の保存・活用・整備等の方向性を市民に示すためにも史跡整備計画策定に向けた事業は引き続き実施するべきである。また、遺跡の価値を更に高めるためにも遺物の同定作業にかかる自然科学分析や遺物の二次元化を進める遺物実測についても引き続き実施されたい。			

令和4年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和5年度～令和7年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	橋野高炉跡修復・公開活用事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/歴史・文化・芸術文化の振興	担当課	世界遺産課
施策①	橋野鉄鉱山の保存・整備・活用の推進	電話番号	0193-22-0005
施策②	橋野鉄鉱山の保存・整備・活用の推進	ハード・ソフト	ハード
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
市長基本施策	多様につながる拠点としての先駆的なまちづくり	補助・単独	補助
事業期間	令和4年度～令和6年度		
事業の概要			
世界遺産橋野鉄鉱山を適切に保存・修復し、後世に残していくとともに橋野鉄鉱山に関する理解増進を図る必要があることから、石垣、採掘場跡の修復を行うとともに、視覚的に理解しやすい遺構表示を行うもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化で石垣等が崩落する恐れがある。 ・橋野高炉跡を見学しても当時の状況がわかりにくい。 ・どこが遺構かわからない。
目的
<ul style="list-style-type: none"> ・橋野高炉跡を適切に保存・修復・整備し、後世に残していくとともに理解増進を図っていく。 ・明確な遺構の位置と用途の理解の増進を図る。

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
橋野高炉跡の遺構の保護及び理解増進を図るため視覚的に理解しやすい遺構表示等を行う（今期は二番高炉ブロックが対象）。		
①石垣の修復（水路石垣・平場石垣・長屋跡石垣）		
②遺構表示及び見学道の整備（範囲内容確認調査成果に基づく）		
事業費		
R 5	R 6	R 7
26,394 千円	44,000 千円	0 千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
来訪者の安全性や満足度を高めることは世界遺産としての価値の向上、交流人口の拡大が期待できるため、実施が必要な事業だと判断される。特に、石垣の修復については、崩落した場合に世界遺産としての価値を失うだけでなく、来訪者が崩落の際に事故に巻き込まれてしまう恐れ等があることから早期に実施すべきと考える。また、石垣崩落の危険性を計るため、石垣微動調査に多額の経費を投入して実施しており、修復しないことにより今後も本調査を実施することとなることから、費用面を考慮しても石垣修復は、早期に実施することが望ましいと考える。			

令和4年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和5年度～令和7年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	橋野鉄鉱山インフォメーションセンター共通展示整備事業		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/歴史・文化・芸術文化の振興	担当課	世界遺産課
施策①	橋野鉄鉱山の保存・整備・活用の推進	電話番号	0193-22-8846
施策②	世界遺産関連施設の適切な管理運営	ハード・ソフト	ハード
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	新規
市長基本施策	多様につながる拠点としての先駆的なまちづくり	補助・単独	補助
事業期間	令和6年度～令和6年度		
事業の概要	橋野鉄鉱山インフォメーションセンターは、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」のビジターセンターとして平成25年にオープンしている。平成27年に行われたユネスコ世界遺産会議で、構成資産全体が理解できる共通展示の整備について勧告されている。令和7年に世界遺産登録10周年を迎えることから、記念事業として共通展示を整備することにより、資産の認知度の向上や理解増進を図るもの。		

2. 現状・課題及び目的

現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 橋野鉄鉱山を見学しても当時の状況がわかりにくい。 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産としての「橋野鉄鉱山」の説明が不十分である。 構成資産全体が理解できない。
目的	来館者が「橋野鉄鉱山」の全容を理解できるとともに、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産全体が理解できる。

3. 主な活動及び事業費

主な活動	「橋野鉄鉱山」及び世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の理解増進を図るため視覚的に理解しやすい展示を行うとともに、産業遺産情報センター及び各エリアのビジターセンターと連携した共通展示を行う。		
事業費	R 5	R 6	R 7
	0千円	35,796千円	0千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果	内閣府官房から明治日本の産業革命遺産の共通展示を進めるよう勧告されている中で、本事業の実施は、新規の来訪者の満足度の向上、リピーターの確保にもつなげられることが期待できるため、事業を実施する必要があると考えられる。一方で、他自治体における共通展示の実施状況等を鑑みると事業の緊急性については、乏しいと判断されることや事業の実施方法や実施規模については、今後精査する必要がある。来年度の事業実施に向けて、事業費、事業内容を精査したうえで、予算計上のこと。		

令和4年度 第六次釜石市総合計画・実施計画（令和5年度～令和7年度）

1. 事業の概要等

事務事業名	鉄の歴史館改修事業（カーボンニュートラル事業含む）		
政策	地域と人のつながりの中でみんなが育つまち/歴史・文化・芸術文化の振興	担当課	世界遺産課
施策①	橋野鉄鉱山の保存・整備・活用の推進	電話番号	0193-22-8846
施策②	世界遺産関連施設の適切な管理運営	ハード・ソフト	ハード
重点プロジェクト	学びの多様性の実現に向けて	新規・継続	継続
市長基本施策	多様につながる拠点としての先駆的なまちづくり	補助・単独	補助
事業期間	令和4年度～令和6年度		
事業の概要			
鉄の歴史館は当市の製鉄や鉱山の歴史文化を学習する施設として、本館は昭和60年、新館は平成6年にオープンしている。両館とも経年劣化による老朽化があることから、来館者の安全で快適な施設見学を確保するために適切な改修を行うもの。			

2. 現状・課題及び目的

現状・課題
<p>当市の観光は他市町村への中継地点となることが多く、市内に滞在・宿泊する旅行客がが少ない状況にある。魅力的な観光場所を増やし、滞在型の観光地となることが求められている。</p> <p>世界遺産登録後に発掘調査を進めたことにより、遺物が増加し整理及び保管場所が不足している。</p>
目的
<p>鉄の歴史館の改修により、来館者の安全で快適な見学環境を整えるとともに橋野鉄鉱山、旧釜石鉱山事務所などの関連施設と連携して滞在時間の延長を図る。</p>

3. 主な活動及び事業費

主な活動		
<p>【設計業務】 建築・電気設計</p> <p>【建築工事】 断熱性能向上を伴う屋根防水・外壁改修、内装改修、トイレ改修など</p> <p>【電気工事】 太陽光発電・蓄電池導入、空調設備更新、エレベーター更新など</p>		
事業費		
R 5	R 6	R 7
0千円	185,000千円	0千円

4. 評価結果

妥当性	有効性	効率性	公平性
適切	見直し余地あり	適切	適切
評価結果			
<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、修学旅行生の来訪が増加しており、また、感染症終息後には、市外観光客が多く来訪することが見込まれる中で、来訪者の満足度を高めるためには、施設の修繕・維持管理は必須である考える。また、最悪の場合、雨漏りによる展示物の破損や大規模修繕となった際には、臨時休館等の措置を取らざるを得ない状況となり、市全体に与える損害が大きくなることも懸念されることから、修繕箇所の優先度を審議し、継続して実施すべきと考える。</p>			